

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	14人	算数	14人	理科	14人
第5学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人

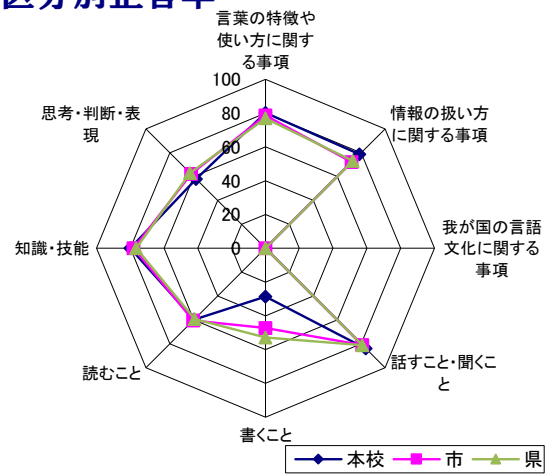
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.2	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	78.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.9	81.0	81.1
	書くこと	28.6	47.2	52.8
	読むこと	59.8	60.5	59.3
観点	知識・技能	80.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	58.0	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

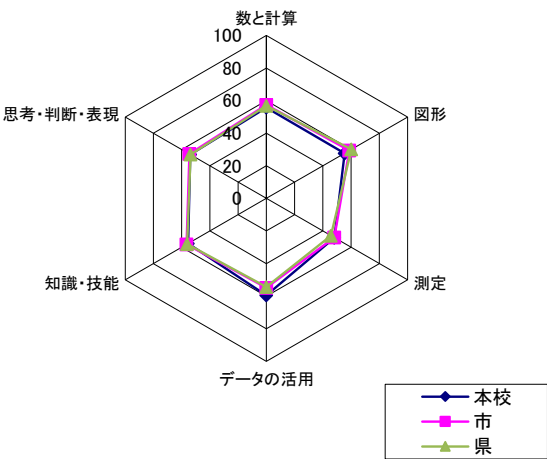
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均よりも上回っているものが多い。 ○漢字を読む問題の正答率は、市の平均を8.1ポイント上回った。 ●漢字を書く問題の平均回答率は、市の平均を10.5ポイント下回った。	・漢字を書くことについては、朝の学習や家庭学習などで、繰り返し書く練習をすることで、漢字の書きの定着を図る。 ・主語と述語の理解については、文章を自分で書いた際に、主語と述語の関係に目を向けさせるような声掛けを通して定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県や市の平均を上回った。 ○国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ問題の平均正答率は、市の平均を6.4ポイント上回った。	・国語の学習において、日常的に国語辞典を使用することで語彙を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○司会者の話し方の工夫を説明した文として適するものを選択する問題の正答率は、市の平均を11.8ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は、市の平均を12.7ポイント下回った。	・学級での話し合いの場をこれまで以上に設け、話し手の意図を正しく汲み取ることを体験させることで定着を図る。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均を大きく下回っている。 ●段落の役割について理解し、指定された条件のもとで、自分の意見を根拠を示しながら書く問題では、県や市の平均を28.5ポイント下回った。また、児童の35.7%は無回答であった。	・無回答率を減らすために、書くことに抵抗を感じている児童には、短い文を書く機会を増やし、抵抗感を払拭する支援を行う。 ・自分の考えを文章で表現させるため、授業展開に意図的、積極的に書く指導を取り入れる。また、定期的に日記指導や朝の学習などで指定された条件で文章を書くことの経験を積ませる。
読むこと	平均正答率は、県や市と同程度であった。 ○場面の様子について叙述を基に捉え問題の正答率は100%であり、県や市の平均を14.9ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題の正答率は、県や市の平均を17ポイント下回った。	・登場人物の気持ちが分かる文に着目させたり、物語全体を通して、登場人物の気持ちについて話し合ったりすることで、読解力を高めていく。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.7	57.4	56.9
	図形	55.4	58.7	60.1
	測定	48.2	48.1	45.7
	データの活用	59.5	54.9	54.3
観点	知識・技能	55.5	56.6	56.2
	思考・判断・表現	54.0	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

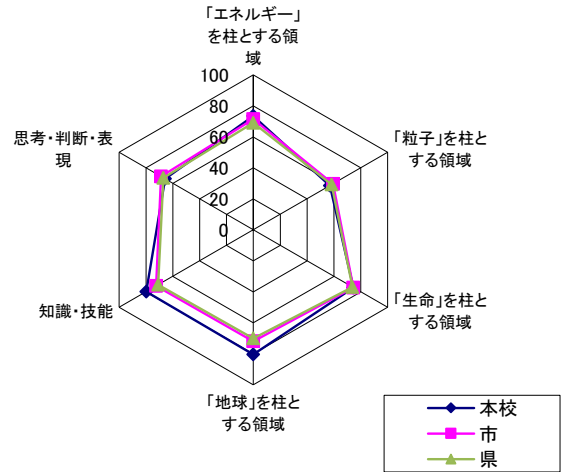
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○整数－小数の計算や、小数を数直線上に表す問題は、県や市の平均より大きく上回った。分数や□を使った計算も、県や市の平均を上回った。 ●2桁×1桁の立式や計算、小数の仕組みや表し方を答える問題では、県や市の平均を大きく下回った。	・朝の学習や家庭学習等で習熟を図り、引き続き基礎基本の定着を目指す。 ・少人数指導担当教諭と連携し、一人一人の学習の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。
図形	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○球の断面図や半径を求める問題では、平均正答率がいずれも県や市の平均を上回った。 ●円の性質を利用した作図の問題や二等辺三角形の性質を理解する問題では、県や市の平均を大きく下回った。	・朝の学習や家庭学習等で、基礎基本の定着を図る。 ・応用問題や、コンパスや定規等を使った作図に取り組む機会を増やし、作図や考え方に慣れていこうプリント等で習熟を図る。 ・用語の意味を理解させる指導を意識して行い、活用できる能力の向上を図る。
測定	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○時刻を求める問題、道のりを求める問題、はかりの目盛りを読み取る問題では、県や市の平均を上回った。 ●重さを基準量のいくつか分で考え、説明する問題では、県や市の平均をやや下回った。	・身近な物を教材として取り入れることで、日常生活と学習内容を関連付けて考えられるようにし、定着を図る。 ・算数の学習だけではなく、日常生活の中で、重さ、長さ、時間などを話題にし、量感に対する意識を高めていく。
データの活用	平均正答率は県の平均をやや上回り、市の平均と同程度であった。 ○二次元の表から傾向を読み取る問題では、県や市の平均より大きく上回った。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題は、市の平均よりわずかに下回った。	・棒グラフなどは、理科や学級活動など他教科や領域でも読み取る、書く、などの機会を捉え、活用していけるよう指導する。 ・教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用して解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.4	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	57.1	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	80.4	72.0	70.1
観点	知識・技能	79.8	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○「豆電球に明かりがつく回路の特徴」についてよく理解しており、正答率が100%であった。実験を通して体験的に学習を積み重ねた成果であると考えられる。 ●実験の結果を適切に表している棒グラフを選ぶ問題では平均正答率が市の平均を13.7ポイント下回った。	・今後も体験的な活動を重視して学習に取り組ませることで、児童の興味・関心を高めながら、正しい知識や実験の技能を身につけさせていきたい。 ・棒グラフについては、理科授業に限らず、算数科や総合的な学習の時間でも習熟・活用を図る等、棒グラフを書いたり読んだりする機会を意図的に設けることで、理解を深めるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○「ものの重さ」について、実験の結果から推測して体積を考察する問題では、平均正答率が市の平均より6.2ポイント高い。日頃から、実験結果を比較する活動を取り入れてきた成果であると考えられる。 ●「ものの重さ」について、提示された実験結果の予想を選ぶ問題では、平均正答率が市の平均より12.7ポイント下回った。	・実験の結果を比較・考察する学習を繰り返す行うことで、定着を図って行きたい。 ・今後は、実験をする際に予想を立ててから実験を始めるよう習慣づけるようにする。予想を基に実験結果を構想することで、理解を深めるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○「チョウを育てよう」では、「モンシロチョウのたまごや幼虫の色や特徴」についてよく理解しており、正答率が100%であった。実際に教室でたまごから飼育観察した成果であると考えられる。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える問題では、平均正答率が市の平均より7.1ポイント下回った。	・今後も植物や昆虫を実際に育てる活動を継続して行い、実践的に学べる場を設けるようにする。 ・観察した記録を図や数値だけでなく、初めて気づいたことや比較してわかったこと、予想と違ったこと等、自分の言葉でまとめるという活動に取り組ませていきたい。その際、なぜそう考えたのか、理由も書かせるようにしていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を下回り、市の平均をやや下回った。 ○「温度計の正しい使い方」についての正答率が100%であった。実際に温度計を使用して観察・実験を行う等、体験的活動を重視しながら学習を進めた成果であると考えられる。 ●「方位磁針の正しい使い方」を確かめる問題では、平均正答率が市の平均より8.6ポイント下回った。	・今後も体験的な活動を重視しながら、観察・実験等に取り組ませることで、道具の使い方や実験記録の取り方を身に付けさせていきたい。 ・方位磁針については、理科の「かげと太陽」の単元に限らず、社会科や総合的な学習の時間でも活用を図る等、道具を使用する機会を意図的に設けることで、理解を深めるようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

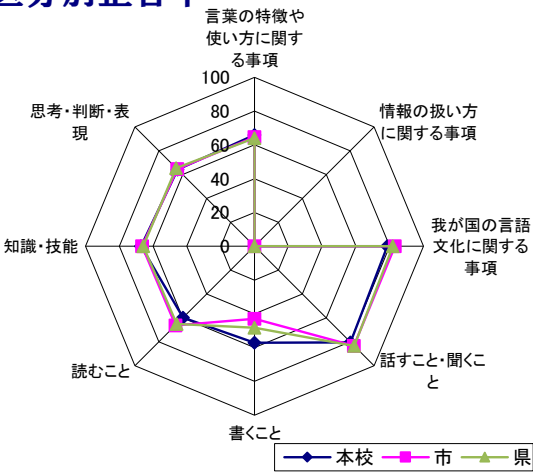
○「次の教科などの学習は将来のために大切だと思いますか」の設問において、国語、社会、算数、理科、総合と、すべての教科で県の平均を概ね上回った。学習内容や学ぶことが将来のために大切であることを理解し、学習に取り組んでいることがわかる。

●「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答率は、県の平均回答率を上回っているのに対し、「家で、学校の予習をしている」、「家で、学校の復習をしている」の肯定的回答率は県の平均を大きく下回っている。予習や復習が自身の学力向上に繋がることを伝え、自主学習の定着を図っていく。また、家庭学習の習慣化を図るために、家庭との連携を図ってきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.9	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	80.4	83.3	83.4
	書くこと	57.1	42.8	48.2
	読むこと	59.8	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.1	66.5	65.9
	思考・判断・表現	64.3	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

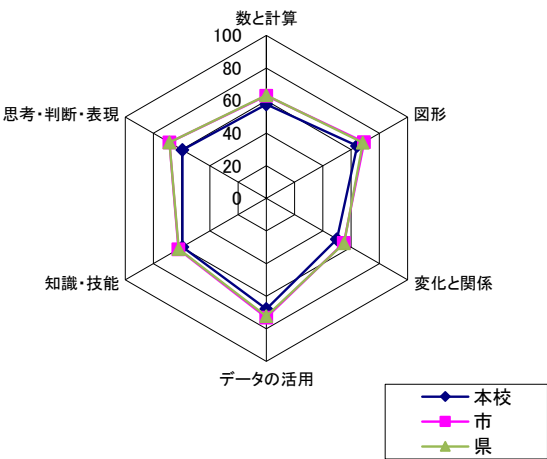
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県や市の平均と同程度か、やや下回っている。 ○熟語の漢字の組み合わせについての問題の正答率は、県や市の平均を大きく上回った。 ●漢字の読み・書き取りや連体修飾語に関する問題の正答率は県や市の正答率をやや下回った。	・漢字の学習については、朝の学習や家庭学習・AIDリルなどを活用したり、小テストとその復習などを定期的に行ったりしてさらに定着を図る。 ・修飾語の問題については、授業中に意図的に取り上げ学習したり、練習問題を解いたりして繰り返し学習する機会を意図的に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県や市の平均と同程度であった。 ●ことわざの正しい使い方を問う問題では、市の平均を4.5ポイント下回った。	・授業の中で、辞書などを使って言葉の意味調べを取り入れるようにする。 ・本や新聞などの様々な文章に慣れ親しむ機会を意図的に作っていき、日常生活で使うことができる語彙を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均をやや下回っている。 ○話の内容を捉え、適した説明を選ぶ問題では、県や市の平均を大きく上回った。 ●話し合いの目的と内容を確認し、参加者の発言をもとに考えをまとめる問題では、県と市の平均を大きく下回っている。	・授業における話し合い活動で、自分の意見を伝えるだけでなく、友達の意見を聞いた上でどう思ったのか考えさせたり、友達の意見から新たに自分の考えを再構築し、伝える機会などを設けたりしていく。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均を上回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題や、事実と自分の考えを書く問題では、県や市の平均を大きく上回った。 ●指定された長さや二段落構成で文章を書く設問で、県や市の平均をやや下回った。	・文章を書く項目で成果が得られた数値になっているが、個人差が大きい面もあるため、授業の中では書いた文章を友達と互いに読み合ったり、友達の書いた文章のよさを見付けたりする時間を設けて、学び合えるようにする。 ・授業内容について自分の考えを短文でまとめたり、キーワードを使って自分で学習のまとめの文章を考えるなど、日常的に各活動を取り入れ、文章を書くことに慣れるようにする。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均を下回っている。 ○物語文において、登場人物の気持ちを考える問題では、県や市の平均を大きく上回っている。 ●物語文、説明文ともに、文章の内容を理解し空欄に適する言葉を考える問題委で、県や市の平均を下回った。	・文章の大まかな内容を捉えたり、登場人物の心情を考えたりすることはできるが、適切な言葉を見つけたり選んだりすることが難しい。授業の中で説明文、物語文から重要な部分に線を引いたり、適切な言葉を書き抜いたりする活動を取り入れ、設問に合った言葉を選ぶ力を付けるようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.7	63.0	63.3
	図形	64.3	69.2	68.3
	変化と関係	50.0	54.8	55.0
	データの活用	67.9	73.1	72.3
観点	知識・技能	59.5	62.3	62.1
	思考・判断・表現	59.5	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

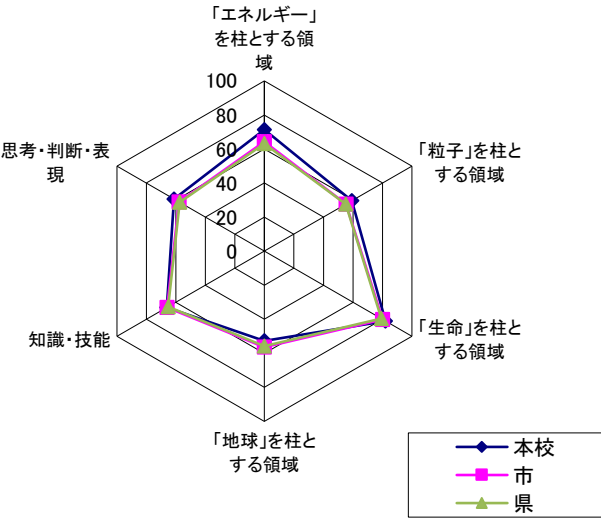
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均をやや下回った。 ○小数÷整数＝(被除数が1/100の位まで)の計算では、県や市の平均正答率を上回った。 ○1/100の位の小数×整数の計算では、県や市の平均正答率を上回った。 ●2つの小数について、もとにする小数のいくつかで大きさを比べる問題では、県や市の平均正答率を下回った。	・小数の大きさを比較する際は、小数を構成する単位に着目させ、数直線の日盛りを読んだり位取り表を活用したりしながら、大きさを捉えられるよう指導していく。 ・小数の学習全般を通して、既習の考え方を想起させながら式や図を用いて課題に取り組めるよう指導していく。
図形	平均正答率は、県や市の平均と同程度であった。 ○三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を選ぶ問題では、県や市の平均正答率を上回った。 ●立方体と直方体の違いを選ぶ問題では、県や市の平均を下回った。	・図形の性質などについては、授業の中でも随時取り上げ、定着を図る。 ・朝の学習や家庭学習などでも図形の問題を繰り返し行い、図形に対する基礎的基本的な学習で知識の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、県の平均と同程度で市の平均をやや下回った。 ○表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題では、県や市の平均正答率と同程度であった。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、県や市の平均正答率を下回った。	・割合の学習においては、もとにする量とそれを1とみたときのもう一方の量に当たる数がどれかを、文章の中から正しく見つけることや、問題の場面を線分図や数直線などの図に表し、求め方を考える機会を設けることで、基礎学力の定着を図る。
データの活用	平均正答率は、県の平均を下回り、市の平均と同程度であった。 ○二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、県や市の平均正答率と同程度であった。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題は、県や市の平均正答率を下回った。	・今後も継続的に、グラフや二次元表を読み取る学習活動を意図的に取り入れ、データを二つの観点から分類整理する仕方をより一層定着させる。 ・生活の中でグラフから変化の様子を説明するような場面を意識的に設ける。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.4	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	59.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.1	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	52.7	56.4	55.8
観点	知識・技能	66.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.3	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均よりも高い。 ○「直列つなぎの名称」を問う設問や「電流が流れない回路の改善」を答える問題ではいずれも市の平均を10ポイント以上上回った。 ●「乾電池の向きを入れ替えた際の簡易検流計の針の振れ方」を問う設問では市の平均を8ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な知識の定着に加え、回路の不具合の原因究明や、空気の温まり方と関連付けて考えるような、思考・判断・表現力をさらに高める指導の充実を図る。 ・電流の向きや大きさについての理解を深めるため、乾電池のつなぎ方と簡易検流計の針の動きの関係を、実験を通してより具体的に身に付けさせていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均よりも高い。 ○「1つのピストンに水と空気を閉じ込めて圧す実験の結果」について問う設問では県の平均を7ポイント下回った。 ●「空気でっぽうの玉がとぶしくみ」について問う設問では市の平均を6ポイント下回った。	・「空気と水」の性質に関する理解は進んでいるものの、空気の性質が具体的にどのような現象や道具の仕組みにつながるのかを、より明確に理解できるよう、実験や観察を通して実感を伴う指導を工夫していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均と同程度であった。 ○季節ごとの植物の成長の様子についての設問では市の平均を12ポイント上回り、非常に高い理解が見られる。 ●骨の複数の働きについてすべてを正確に選択する設問では市の平均を9ポイント下回った。	・骨の複数の働きについては、実体験を通して気付いたことをもとに考察を深め、知識の定着をさらに図れるようにする。 ・動物の体のつくりに関して考察させ絵や図・文章などでまとめさせていくことで、知識と観察・考察とを関連付ける学習を取り入れ、理解を深めさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県や市の平均よりも低い。 ○「月の位置の変化についての理解」を問う設問では、市の平均を1ポイント上回った。 ●「一日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取った内容の文章を選ぶ」設問では市の平均を9ポイント下回った。	・気温のグラフの読み取りについては、様々なグラフに触れ、特徴を正確に把握する練習を重ねることで、理解を図れるようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の設問の肯定的回答は、県の平均を大きく上回っている。授業においても、調べ学習や実験、実地調査などの活動を充実させ、根気強く取り組もうとする態度をさらに育てていきたい。

○「授業では、自分の考えが発表される場が与えられている。」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の設問の肯定的回答は、県の平均を大きく上回っている。引き続き、ペアやグループで全員が考えを話す機会を与えたり、ペアでの話し合いで発話することに自信をつけさせ、学級全体への発表などに取り組むことができよう支援していきたい。

○国語・算数・理科・社会の教科において、「授業の内容はよく分かりますか。」の設問の肯定的回答は、県の平均を大きく上回っている。これは、少人数学級の良さであるきめ細やかな個別支援の成果であると考えられる。一方で、国語の読み書きや、算数の計算力の定着には未だ課題が見られることもあるため、授業だけでなく、朝の学習の活用や家庭学習の習慣化の推進などにより一層力を入れていく。

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり、本を読んだりするのは好きだ。」の設問では、県の平均をやや上回り、また、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。」の設問では、県の平均を大きく上回っている。身の回りの出来事や現象に興味・関心・疑問をもって学習課題に取り組もうとしている姿勢が見られるため、児童の良さを伸ばしていけるよう教材研究や単元計画を進めていく。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の設問の肯定的回答は、県の平均をやや下回っている。授業の内容や、新しく学んだ内容などについて、児童は意欲的に学ぼうとしている反面、習った内容をもう一度見直したり、自分のできなかった問題の解き直しをしたりと、自分で学習内容を考えて行う習慣が少ないので、自主学習を通して復習する習慣を付けるようにする。

●「家で授業の予習をしている。」の設問の肯定的回答は、県平均をやや下回っている。自分の興味、関心をもった内容を自分のペースで学んでいくことや、自主学習での予習の仕方などを考えさせ、声掛けしていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」の設問の肯定的回答は、県の平均をやや下回っている。教室に辞書を置いたり、授業の中でわからない言葉を空させたりするなどして、活用の機会を設けていきたい。

宇都宮市立富屋小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって主体的に取り組む学習指導の工夫	・児童が課題解決に向けて見通しをもつための支援と個に応じた指導の工夫をする。 ・学習のねらいや課題を明確にした授業構成を工夫する。	「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問の肯定的回答の割合は4・5年ともに県や市の平均を上回っている。しかし、「授業の中で、目標が示されている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合は4・5年ともに県や市の平均を下回っている。これらのことから、分かるようになりたい思いはあるが、問題解決に向けて見通しがもてずにいる児童がいることが伺える。
分かりやすく伝える力や、正確に受け止め学び合う力を育てるための工夫	・友達と意見を交換し、互いの考えを深めたり広げたりできるような場を意図的に設ける。 ・発達段階に応じた課題に対するまとめと、文章による振り返りができるような学習展開を工夫する。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問への肯定的回答率は4・5年ともに県や市の割合を上回っている。しかし、「授業の最後に振り返る活動を行っている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問への肯定的回答率は4・5年ともに県や市の割合を下回っている。また、教科に関する調査の記述式設問での正答率も県や市の平均を下回っている。これらのことから、友達の考えを受けて自分の考えを書いたり、学習したことを自分の言葉でまとめて書く等、書くことに対して抵抗感を感じている児童が多いことが伺える。